371300_shobo_vol710_01



# 第三一回全国女性消防団員活性化北海道大会開催！

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号
編集発行人　安　滿　真　哉

第三一回全国女性消防団員活性化北海道大会が、令和八年九月二五日（金）に札幌コンベンションセンターで開催されました。

本年は「〝イランカラプテ〟緑豊かな北の国へ　～笑顔を守る女性消防団員～」をテーマに、黙祷、大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、実行委員長挨拶、開催地市長挨拶と知事挨拶、開催地市長挨拶とプログラムが進行し、地元の北海道札幌市の消防団をはじめとする五団体の活動事例発表と、昼食休憩の際には札幌ｍｏｍｍｙ，ｓブラスによる素晴らしい吹奏楽の演奏が行われました。

その後、地元北海道の出身で元スピードスケート選手の高木菜那さんによる経験をもとにした元気と笑顔あふれる記念講演と、二団体によるプロ顔負けの防火防災啓発劇の発表が行われました。また、沖縄県消防協会久高清美会長をコーディネーターとして、事例発表いただいた五団体の方に参加いただき、パネルディスカッションが行われました。最後に、次回開催地である我々兵庫県へ大会旗の引き継ぎが行われ、「Ｊｏｉｎ　ｕｓ！　一歩踏み出そう　女性消防団～ひょうごから全国へ広げる防災の輪～」というテーマの横断幕が兵庫県の女性消防団員たちにより掲げられ、閉会宣言の後に、大会は盛会のうちに閉幕しました。

大会後は、同会場にて情報交流会が開催され、和太鼓ＴＡＷＯＯ北海道ｆｅａｔ烏一匹による演奏や、アイヌアートプロジェクトによるパフォーマンスといった、北海道ならではのアトラクションが行われ、会場からは盛んに拍手が送られていました。この交流会では県内から参加した女性消防団員が、自らの活動を紹介したパネルなどを準備して、全国の女性消防団員に対してアピールするなど積極的に情報交換をされていました。また、当日は当協会安満会長も来年の兵庫県開催へ向け、本県の女性消防団員の活性化や大会の成功へと意を強くしたところです。女性消防団員の皆様にあっては、本大会で得られた多くの学びをそれぞれの消防団活動に活用していただき、兵庫県の地域防災力強化にご助力賜りますようお願いします。

なお、兵庫県からの参加消防団は次のとおりです。

神戸市灘消防団・神戸市北消防団・神戸市長田消防団・神戸市須磨消防団・神戸市垂水消防団・姫路東消防団・尼崎市消防団・明石市消防団・洲本市消防団・伊丹市消防団・三木市消防団・川西市消防団・丹波市篠山市消防団・丹波市消防団・南あわじ市消防団・朝来市消防団・淡路市消防団・播磨町消防団・太子町消防団・兵庫県消防協会

次回の開催地は兵庫県神戸市で、令和九年一一月四日（木）に開催される予定です。



兵庫県女性消防団員によるPR



次期開催地代表挨拶　安満会長



第三二回全国女性消防団員活性化兵庫大会



防災啓発劇



兵庫県ブース

二〇二六年
全国統一防火標語
火の確認
いい日を支える
いい習慣

371300_shobo_vol710_02



# 第九一期 初任教育査閲・卒業式




一斉放水訓練

第九一期初任教育生スローガン

## 戮力協心 ～ひとりじゃないだから強くなれた～

令和八年九月一九日（土）、兵庫県消防学校にて第九一期初任教育査閲が執り行われました。

四月に入校した一六三名の教育生たちは、半年におよぶ厳しい訓練を積み重ね、その逞しく成長した姿をご家族をはじめ関係来賓の皆さま、そして各消防本部の消防長を前に、余すところなく披露しました。そして査閲を終えた教育生達は九月二五日（金）に卒業式を終え、それぞれの所属において「消防人」としての新たな一歩を踏み出しました。

第九一期初任教育のスローガンである「戮力協心（りくりょくきょうしん）」これは「互いに心を一つにして協力し合うこと」という意味を持つ四字熟語です。

教育生たちは、数々の厳しい訓練の中で体力の限界を感じ、気持ちで負けそうになる時も諦めることなくお互いに励まし合い常に前を向き、心をひとつに乗り越えてきました。

訓練を重ねるごとに消防士に課せられた使命と責任の重さを強く感じるとともに、人を助けることの難しさを実感し、その時心に刻んだ言葉がこの「戮力協心」という四字熟語だったそうです。

この言葉を胸に刻んだ第九一期一六三名の消防士たちは、これから現場の最前線において消防士としての使命を果たすため、情熱と厳格な熱意を持って、努力を続けてくれることでしょう。




スローガンと整列



分列行進



火災対応訓練



安満県消防協会長による励ましのことば



救助訓練

～卒業式～



初任教育生代表による答辞



卒業証書授与

26102701スガ→102801スガ→110201スガ→111201スガ→

371300_shobo_vol710_03



# 令和八年度 救急救命士養成課程 入校式が挙行!



救急救命士養成課程入校式　集合写真

## ～未来の救急医療を担う 県内消防本部職員四七名が 新たな一歩を踏み出す～

令和八年九月一日、県立広域防災センター消防学校において、令和八年度救急救命士養成課程の入校式が執り行われました。入校式では、第二二期生として入校した教育生（県内消防本部職員）四七名のほか、県幹部職員や各消防長、そして県内の救急医療機関で活躍されている医師をはじめ、関係者の皆様が参列し、未来の救急救命士たちの門出を祝福しました。

本課程に入校した教育生は、来年三月に実施される救急救命士国家試験合格に向け、七か月間にわたり、医学的知識の習得や、病院実習、実技訓練などのカリキュラムを履修します。

今回入校した四七名の皆さんが目指す『救急救命士』は、救急現場や救急車内において、重度の傷病者や生命の危機にある傷病者に対し、医師の指示のもと必要な処置を行う医療専門職です。救急救命士による迅速かつ的確な処置は、搬送される傷病者の救命率や社会復帰率の向上につながっています。

また、緊急性の高い現場において高度な医療行為を行うことができる救急救命士には、地域の安全・安心を支える存在として、県民からも大きな期待が寄せられています。

入校式の中で行われた教育生宣誓では、総代の姫路市消防局所属の立花雄亮消防司令補が、入校に当たっての決意を力強く宣誓されました。その姿からは、将来、救急救命士として人命救助に携わることを見据え、勉学に励む強い決意がうかがえました。

今回入校された皆さんには、研修期間中で日々互いに切磋琢磨しながら、救急医療を安全かつ的確に行うことができる知識と技術を身に付け、国家試験合格後はそれぞれの地域の救急現場において、高度な専門知識と技術を有する救急救命士として活躍されることを心より期待しています。



入校式の様子



役員の任命



教育生宣誓

26102701スガ→102801スガ→110201スガ→111201スガ→

371300_shobo_vol710_04






慰霊祭会場

第四五回全国消防殉職者慰霊祭が、令和八年九月一〇日（木）、日本消防会館ニッショーホールにおいて、厳粛に執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に郷土愛護の精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消防・救急活動を行い不幸にも殉職された全国の消防団員・職員及び一般協力者の方々です。

昭和五七年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭が行われており、本年は四柱の御霊が新たに合祀され、明治五年からの消防殉職者等の御霊は、五，七九九柱となったとのことです。

兵庫県からは神戸市ならびに宝塚市の二組五名のご遺族の他、安満会長をはじめ三名の関係者が参列しました。

御霊の奉納、国歌斉唱、黙祷、沖山日本消防協会長の式辞、そして内閣総理大臣、総務大臣の追悼のことばに続き、遺族代表による追悼のことばがありました。

その後は参列者が個人の冥福を祈り献花を行い、江戸消防記念会から鎮魂の歌（木遣り）が披露され、式典は厳かに滞りなく終了しました。




慰霊碑

## 第四五回全国消防殉職者慰霊祭
## 式　次　第

開式のことば
御霊の奉納
国歌斉唱
消防殉職者に対する黙とう
式　　辞　（公財）日本消防協会会長　沖山　仁
追悼のことば　内閣総理大臣　高市　早苗
　　総務大臣　林　芳正
　　ご遺族代表　渋井　寛之
献　　花
鎮魂の歌（木遣り）
会長あいさつ
閉式のことば

（式典協力）
献花補助……（一社）東京都消防協会
〔浅草消防団、日本堤消防団、尾久消防団、千住消防団、足立消防団、西新井消防団〕
演　　奏……東京消防庁音楽隊
木遣り（鎮魂の歌）…（一社）江戸消防記念会

26102701スガ→102801スガ→

371300_shobo_vol710_05



# 消防団ピックアップ

Pick Up!

## 『地域に根差した消防団』　淡路市消防団

淡路市は、「国生み神話の島」として知られる淡路島の北部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を望む海で囲まれた自然豊かで温暖なまちです。

古くから御食国・食の宝庫として全国的に知られ、近年では「淡路産」玉ねぎ・牛肉・海産物等も好評で、明石海峡大橋から訪れる人を迎え入れる玄関都市として、年間を通じて多くの人が来島しています。また、伊弉諾神宮や松帆台場、五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡など数多くの文化財が守り伝えられてきたことでも知られています。

平成一七年の市町合併により五町から一市となり、消防団も合併を機に統一されました。

淡路市消防団は本部をはじめ旧町から継承した五地区の団組織（二四分団）で構成され、一五一四名の団員が在籍、年頭の初出式を皮切りに幹部新入団員合同訓練、操法訓練、防災訓練、防火啓発、年末の特別警戒と年間を通じて多種多様な活動を行っています。


出初式で吹奏するラッパ隊


放水訓練に取り組む新入団員


淡路市長と消防団

**【女性隊プロフィール】**

平成二七年四月に消防団女性隊として発足当初二六名でスタートした女性隊は、今では四一名が在籍しております。

充実した組織体制が高く評価され総務大臣からの感謝状や、県内で活躍する女性を称える「ひょうご女性未来・繚（はなだ）賞」にも選ばれました。

本部所属となる女性消防隊は「しずかファイヤーズ」の愛称で親しまれ、火災予防活動、応急手当普及員を養成しての講座など日頃より災害時の後方支援に備え活動しています。

**【ラッパ隊プロフィール】**

ラッパ隊は隊長以下八名が在籍しており、歴史は古く発足より七〇年を迎えます。

団のシンボルであるラッパ隊は、ラッパ吹奏を通じて、団員を鼓舞し、市民の防火思想の普及及び高揚を図ることを目的に組織されています。

主な活動としては、初出式、阪神・淡路大震災の追悼行事等での吹奏、また、団員の規律維持及び志気高揚を図るため、日々の錬成に励んでいます。

**【最後に】**

一九九五年一月一七日、午前五時四六分、旧北淡町を震源とするマグニチュード七・三、震度七の地震（阪神・淡路大震災）が発生。激しい揺れにより、死者・負傷者、家屋の倒壊と甚大なる被害に見舞われました。

発生直後から関係機関が一丸となり対応。なかでも消防団の活動は、旧町の垣根を超えた救出活動、避難所での安全確保、倒壊家屋のがれき撤去・補修等々、住民の身近な存在として日々活動してきたことを良き教訓として継承しています。

今後、数十年以内に高い確率で発生すると言われている「南海トラフ巨大地震」や「台風・豪雨による災害」など近年、自然災害の猛威により全国的に多発している被害も全国的に多発しています。

淡路市消防団は、「これまでの教訓の再確認」、「関係機関との顔の見える関係」、「組織強化」とともに、それぞれが互いに協力し「地域に根差した消防団」を掲げ今後も日々研鑽してまいります。

## 『消防署及び自主防災組織との連携体制を強化し、地域の安全を守る消防団』　丹波市消防団

**一、丹波市消防団の概要**

丹波市消防団は平成一六年に旧氷上郡の六町消防団が合併し、現在は市内六支団及び女性消防分団の団員定数一七〇六名で活動しております。

消防車両は水槽付ポンプ自動車二七台、ポンプ自動車四台、小型動力ポンプ積載車六三台を保有しております。

「自分たちの町は自分たちで守る」という青木則明消防団長のもと、近年の災害形態を想定した消火訓練を行い、消防技術の向上・士気の高揚を図るとともに消防防災体制の強化に努めています。

**二、丹波市消防団の活動内容**

各支団地域に根差したつながりを生かし、火災への対応はもちろん、台風や大雨などによる風水害への対応、行方不明者の捜索、災害時の警戒活動など、さまざまな場面で市民の安全を守っています。

消防団の活動は、災害が起きたときだけではありません。いざというときに迅速かつ安全に行動できるよう、消火訓練や水防訓練、部隊訓練などを重ね、消防車両や資機材の点検も行っています。また、火災予防運動や地域での防火指導、広報・啓発活動を通じて、火災を未然に防ぐことや、一人ひとりの防災意識を高めることにも取り組んでいます。

こうした日々の備えが、地域の被害を少しでも減らすことにつながります。

また、女性消防分団も、火災予防や防災に関する広報・啓発活動などを通じて、地域の防災力向上に取り組んでいます。幅広い立場の人がそれぞれの力を発揮することで、地域に寄り添った活動を進めています。

近年の気候変動が起因して林野火災や台風、大雨が頻発しています。丹波市消防団でも各支団で林野火災を想定した消火訓練や風水災害に即時対応できるよう準備を行っております。また、台風や大雨による水災害時に市の危機管理部局と連携が取れるよう体制を強化しています。

**三、消防署との連携強化**

丹波市消防団に関する行政担当部署（消防団係）が令和七年度から消防本部に移管したことでこれまで以上に消防署と消防団の連携が取りやすくなりました。

消防署員と消防団が顔を合わす機会が増え有事の際、積極的な情報共有を可能としました。また、災害状況等を即時情報共有することで消防団は初動体制が早くなり、災害対応も以前より早くなりました。

**四、今後の消防団活動**

近年、災害はいつ、どこで起こるか分かりません。消防団だけですべてを担うことはできず、消防署や行政との連携に加え、地域住民一人ひとりの備えや助け合いも欠かせません。日頃から顔の見える関係を築き、いざというときに支え合える地域をつくることも、消防団の大切な役割です。

消防団員は、仕事や家庭と両立しながら、地域の安心を守るために活動しています。訓練や災害対応には責任が伴いますが、仲間と協力して地域に貢献できること、地域の方から感謝の言葉をいただけることは、大きなやりがいです。

これからも丹波市消防団は、地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。「自分たちの町は自分たちで守る」という思いを次の世代へつなぎ、誰もが安心して暮らせる丹波市を目指して、一歩ずつ活動を続けていきます。


消防訓練を行う団員


消防本部との合同訓練

## われら若手消防団員

### ～地域の安全・安心を守る　西宮市消防団の一員として～



西宮市消防団
安井分団　団員
芳村　空輝

私が西宮市消防団に入団したきっかけは、先に所属していた兄の存在です。また、以前から救急救命士を目指し、学んでいたこともあり、生まれ育った西宮市のために役立ちたいと考えていました。その中で、自分も消防団に入団できることを知り、入団を決意しました。

入団前は消防団の活動内容は詳しく知りませんでした。しかし、兄や先輩方から話を聞くうちに、地域を守る消防団に興味を持ち、実際に入団すると、消防団は火災時の消火活動だけでなく、訓練や車両・資機材の点検、防火啓発活動など、幅広い活動をしていることを知りました。

活動を通して感じたことは、「人とのつながり」の大切さです。普段関わることのない様々な世代の方や職業の方と活動することで、新たなつながりが生まれました。また、先輩方から消防の知識や技術、地域のことについて学ぶ機会も増え、視野が広がりました。特に消防団の活動時に、地域の方から「ありがとう」や「ご苦労さま」と声を掛けていただくと、消防団の活動が地域の安全・安心につながっていることを実感します。

今後も仲間と協力し、多くの方に消防団の活動を知っていただき、「自分も地域のために何かしたい」と思ってもらえる消防団員を目指します。そして、若い世代にも西宮市消防団の魅力を伝え、地域を支える仲間を増やしていきたいと思います。

26102701スガ→102801スガ→

371300_shobo_vol710_06



# わが町の団長さん

## 「家庭でも、消防団でも「現役」！」

豊岡市城崎消防団
今井　博和



豊岡市城崎消防団は、豊岡市の北東部に位置する城崎地域を守る、地域に根差した消防団です。城崎温泉という全国有数の観光地を抱え、全国、そして海外からも多くの観光客が訪れる観光地です。地域の安全はもちろん、城崎を訪れる皆さんに「安心して楽しんでいただく」という大きな使命を担って活動しています。

現在、五つの分団で組織され、災害時には、地域を知り尽くした団員がいち早く現場へ駆け付け、消火活動や警戒などにあたっています。また、平常時にも訓練や防火啓発、地域行事への参加などを通じて、「自分たちのまちは自分たちで守る」という消防団の精神を大切にしています。

令和八年四月一日に就任された今井団長は、五〇歳代後半にして、めでたく新たな家族を迎えられました。仕事に、家庭に、そして消防団にと、まさに大奮闘の毎日を送っています。子育てという新たな使命を背負いながらも、団員の先頭に立ち、地域の安全・安心を守る責任を担う姿は頼もしい限りです。「家に帰れば子育て、団に来れば団長」と、休む暇もない日々ですが、そこは持ち前の責任感と行動力で乗り切っています。

地域を守ることの大切さ。そして、子どもの成長を見守る親としての新たな視点。二つの「守る」を胸に、城崎の伝統と人のつながりを大切にしながら、地域の防災を支える「頼れる存在」として、これからも地域とともに歩み続けます。



## 「伝統と信頼を受け継いで」

市川町消防団
仲井　敬



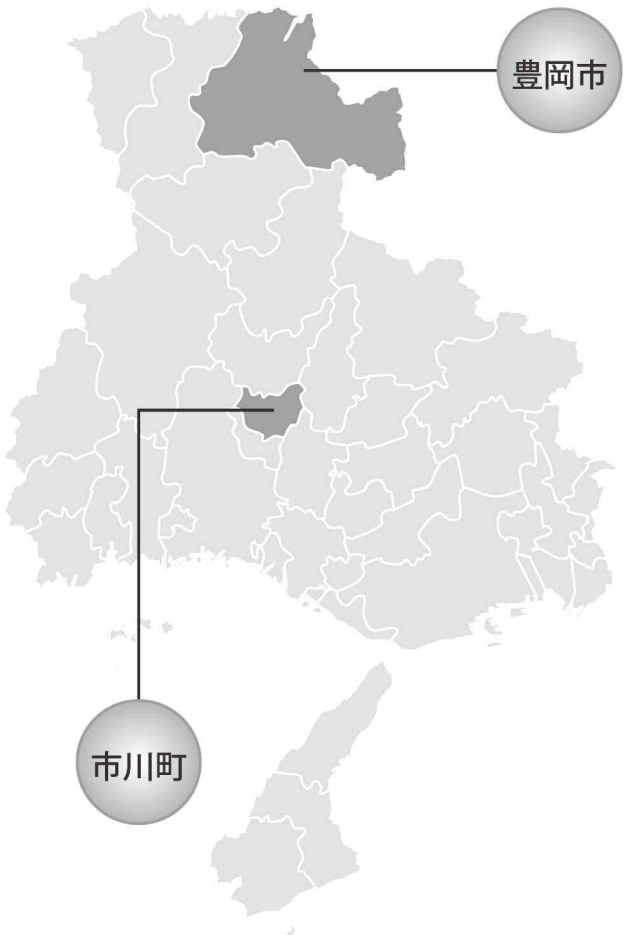
市川町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート型をしたまちです。町の中央部を清流市川がとうとうと流れ、穏やかな川面には田園と山並みが静かに映り込みます。そんな自然豊かな市川町を日々陰から支えているのが、市川町消防団の団員たちです。

市川町消防団は昭和三〇年に発足し、現在は二六分団・団員数四一五名（機能別団員含む）です。その歴史と伝統を受け継ぎながら、令和八年四月に団長に就任されたのが仲井団長です。

仲井団長は平成二六年の入団以来、消防操法の技術と知識を深め続け、副団長を歴任されました。団員一人ひとりの技術向上にも心を砕く、その真摯な姿勢が団員からの信頼を集めています。

令和八年度の重点努力目標『防災意識の向上と野焼き火災ゼロ』のもと、住民との合同訓練や町内四小学校の避難訓練への参加を通じ、地域とのつながりを深めておられます。また、就任期間中の目標として事業所との合同訓練の実現を掲げ、「備えは平時にこそ」という信念のもと、万が一の事態への備えにも力を注いでおられます。

仲井団長は消防活動にとどまらず、地域の陸上教室やバスケットボール教室の指導にも携わるなど、地域全体に貢献されています。これからも仲井団長のもと、住民の安全と安心が守られ続けることを心より期待いたします




# がんばってます、女性消防団員

## 『地域住民の安全安心は私たちの笑顔で支えます!!』

高砂市消防団　女性消防団員

高砂市は、南部に瀬戸内海の播磨灘、北西部には「播磨富士」と呼ばれる高御位山、東部には一級河川の加古川が流れ、海・山・川の豊かな自然に恵まれています。また、結婚式などのおめでたい席で謡われる謡曲「高砂」や、縁結びと夫婦和合の象徴である「尉（じょう）と姥（うば）」のいわれの発祥の地でもあり、数多くの歴史的文化が息づいています。

近年は、「兵庫県の歴史的景観形成地区」に指定されたのをきっかけに始まった「たかさご万灯祭」や、高砂市の活性化を目的として、音楽に合わせて色とりどりのレーザー光線と花火が夜空を飾る「ナイトファンタジーイリュージョン」も人気を博しています。

高砂市消防団は団本部及び七分団で構成され、六〇六名の団員が在籍しています。令和三年四月一日に待望の女性消防団員が誕生し、現在は九名の女性団員が活動しています。

年明けの消防出初式では部隊観閲を行い、地域を守る女性として注目を浴びています。運営面では女性団員が司会を務め、消防出初式の式典及び部隊観閲を盛り上げ、救助訓練の臨場感のあるナレーションも行います。


救急講習会で指導する様子


第二九回東播磨地区消防操法大会での運営を務めました

在籍している女性団員全員が応急手当普及員の資格を有しており、中には応急手当指導員の資格を有している団員もいます。救急講習会の補助及び受講者に丁寧な指導を行い、地域の救命率向上及び救命に関する知識の普及に貢献しています。

市行政が行う防火イベントでは、消防団をＰＲし、女性団員が積極的に地域の子供たちと触れ合うことで、防災がより身近に感じてもらうようになりました。

また、大規模な災害を想定した避難所の運営訓練では、子供や女性に対した時の接しやすさ、女性ならではの目線での行動が期待されています。さらに、自助及び共助の大切さを理解し、積極的に実動型の訓練にも参加しています。

高砂市消防団の女性団員は、使命感に満ち溢れた団員が集まっており、その明るい笑顔に地域住民の安全安心が支えられています。

26102701スガ→102801スガ→